

ナショナル・エディション『ショパン：ノクターン』日本語版第1版第1刷について、10箇所の誤りがございました。ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正いたします。

記

- ① p. 5 ノクターンについて・・・ Op. 55および62
 (誤) パリ、サン＝ラザール通り34番地居住 [略] は、
 (正) パリ、サン＝ラザール通り居住 [略] は、
- ② p. 7 ノクターン b-moll Op. 9-1 第3小節
 (誤) パッセージの自由なグループ分けやモチーフの構成を強調し、アーティキュレーションを変化させるのを彼が容認したことを示している。
 (正) 彼がパッセージの自由なグループ分けを容認していたことを示している。それによってモチーフの構造や、アーティキュレーションの変化を強調することが可能になる。
- ③ p. 9 ノクターン Fis-Dur Op. 15-2 第7, 15, 55小節 [右手]
 (誤) 校訂者は細部の弾き方を第56小節に倣って統一したが
 (正) それによって彼はこの細部の弾き方を第56小節に倣って統一しているのだが
- ④ p. 9 ノクターン cis-moll Op. 27-1 第1小節以降 [左手]
 (誤) 該当する箇所すべてにおいて、和声の基礎となるCis音はペダルを踏み換える前に弾く。
 (正) 和声の基礎となるCis音がペダル記号の前に現われるすべての箇所、同様に対処するとよい。
- ⑤ p. 18 ノクターン F-Dur Op. 15-1 第3, 5小節および類似箇所
 (誤) Wn2 (→Wn3→Wn)
 (正) Wn2 (→Wn3→Wn4)
- ⑥ p. 21 ノクターン Des-Dur Op. 27-2 第1小節 [左手]
 (誤) ヴァリエントは次のように演奏するのがよいと思われる。
 (正) ヴァリエントは次のように演奏してもよいと思われる。
- ⑦ p. 21 ノクターン Des-Dur Op. 27-2 第9～10小節 [右手]
 (誤) これがWnで不正確に記譜され、それをもとに製版されたWf (→Wa) ではf音がタイで結ばれていない。
 (正) その後、WnおよびWfでタイの書き方はさらに不正確なものになり、Wf (→Wa) ではf音がタイで結ばれていない。
- ⑧ p. 22 ノクターン H-Dur Op. 32-1 第21, 42小節
 (誤) Wf (→Wn1→Wa1→Wa2)
 (正) Wf (→Wn1, →Wa1→Wa2)
- ⑨ p. 87 脚注**
 (誤) 弟子のレッスン用楽譜ではffである。その時々の個人的なレッスンの指示であろうと思われる (p. 40の脚注を参照)。
 (正) 弟子のレッスン用楽譜ではffである。[訳注：その時々の個人的なレッスンの指示であろうと思われる] (p. 40の脚注を参照)。
- ⑩ p. 10 ノクターン Des-Dur Op. 27-2 第49～50小節 [左手]
 末尾に「同じ楽譜でショパンは、ppで弾かれる第50小節のces³音を際立たせることも指示している。」を追加。